

単元名 「What do you want?」(Let's Try! 2 Unit 7)

授業者 T1:小松 弥生 教諭 T2:Dwayne Simms (ALT) T3:水田 幸繁 教諭

教材研究会を受けて

- ・参観者との交流は、いろいろな人の思いを知り、自分の表現と比較する場として設定した。
- ・スクリプトを入れることで、付けたい力を再確認した。
- ・本時の Small Talk では、HRT が話し手、ALT が聞き手のモデルを示すようにした。

【新学習指導要領 領域別目標(2) 話すこと [やり取り] ウ】
サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

【CAN-DOリスト形式の学習到達目標 第4学年 話すこと [やり取り]】
自分や相手の好みなどについて、簡単な質問をしたり答えたりしている。

【単元ゴールとしての言語活動】
みんなと一緒に食べたいオリジナルピザを伝え合う。

【単元目標】
○食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり求めたりする表現に慣れ親しむ。(知識及び技能)
○欲しい食材などを尋ねたり求めたりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。(思考力、判断力、表現力等)
○相手に配慮しながら、自分のオリジナルピザを紹介しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

提案授業(第4学年)

- 【本時の活動(5/5時)】**
- ◆ねらい : 相手に配慮しながら、自分のオリジナルピザを伝え合おうとする。
 - ◆評価規準 : 相手に配慮しながら、自分のオリジナルピザについて伝えようとしている。(主)



【本時の展開】			
ウォームアップ	決める	進める	振り返る
① あいさつ Omiya Talking Time	④ Let's make today's goal. 相手に分かりやすく工夫して、オリジナルピザをしょうかいしよう。	⑤ 【Activity1】友達と「みんなと食べたい!オリジナルピザ」を伝え合う ⑥ 中間交流1:話し手と聞き手の立場で友達の表現の良かったところを出し合い、表現を考える ⑦ 【Activity2】中間交流1で確認した表現を意識して、参観者と伝え合う ⑧ 中間交流2:参観者とのやり取りをモデルとして使いたい表現を共有する ⑨ 【Activity3】中間交流1・2で確認した表現や態度を活用して、参観者と伝え合う	⑩ 単元を振り返る 振り返りシートに記入する

③ Small Talk (実際のやり取りの一部)

T1: This is green pepper.
Ss: Why?
T1: My father grows green pepper. It's fresh. It's delicious. Do you like green pepper?
Ss: Yes, I do.
Ss: So - so.

⑥ 中間交流1 (T1の発問)

- ・お友達のピザには何が入ってた? 何で入ってたの?
- ・「〇〇ちゃんが好きだから」は、英語で何て言えばいい?
- ・何でその名前のピザにしたか聞いた?
- ・言いたかったけど言えなかったことは?
- ・「こんな感想を言ってもらって嬉しかったよ。」というものはある?

⑧ 中間交流2 (T1の発問)

- ・先生の名前を聞いた? 自分の名前は言えた? それも伝えるといいね。
- ・「こんなこと言ってもらって嬉しかったよ。」は、ある?
- ・gorgeous pizza って言われたんだ。すごいね。
- ・感想を言ってもらいたいときは何て言ったらいい?
- ・「いいにおい」は何て言ったらいい? nose? nose good? 難しいね。Dwayne 先生に聞いてみよう。
- ・see you だけ? thank you も言うといいね。

T: What's this?
S: Crab!
T: Crab!? Wow, it's gorgeous!

⑩ 振り返り

【児童の振り返り】

- ・今日は先生にもピザを持ってきてもらって、紹介しました。中には、名前がおもしろかったり、考えもしなかったものも入っていたりしたから、びっくりしました。
- ・今日、先生たちとしました。りんごを入れた理由を「くまが好きだから。」と言ったら、「プーさんは確かに甘いもの好きだね。」と返してくれて、嬉しかったです。

【T1のまとめ】

- ・単元のはじめでは、自分のためにパフェを作ったけど、今日のピザは友達のために作ったね。すごいね。友達の好きなものを入れることができるようになったね。いろんな表現を知って、友達のことを伝えたり、いろんな先生方のピザを知ることでもできたね。英語を通して、いろんなことが分かった単元だったと思います。

協議内容

【視点①】子供の言葉を拾い、くだし、つなげているか

- 中間交流が次の Activity につながっていた。
- 「自分」の言い方が分からないと言った児童に何が言いたかったのかと問い返し、言葉をくだいていったことで、「自分の好きなもの」という既習表現につなげていた。
- 教師対児童の1対1のやり取りが多かった。簡単な表現はペアやグループで考えさせ、学び合う場を設定するとよかった。
- 伝えたい内容や方法ができ上がっていたので、児童に困り感がなかったのではないかと。

【視点②】相手に配慮したより良い表現の工夫を考えさせているか

- Small Talk が良いモデルとなっており、児童が興味をもってより良い表現を探していた。
- 相手を意識することで、言うべきこと(名前など)と言わなくてよいことが明確になっていた。
- 「相手への配慮」をどれだけ児童が意識できていたのか。児童自身の言葉で振り返りに書いているかどうかが大切である。
- 中間交流は聞き手の反応がメインだったので、話し手の工夫(友達のためにという思いのアピールなど)にもっていくとよかったのではないかと。



板書計画

当日板書

講師: 鳴門教育大学 中妻佳代 准教授より



- ・中間交流や T1 の Small Talk ではたくさんの気づきがあり、子供がよく育っている。
- ・目的意識や相手意識をもたせ、「自分が本当に言いたいこと」を伝える言語活動となっている。
- ・参観者とのやり取りでは準備した通りに言わせてもらえないため、自覚はしていないかもしれないが、「相手が替わると言い方を変えなくてはいけない」ことを子供たちは感じていたはずである。それを最後の振り返りの場面で価値付けし、指導していくことが大切である。
- ・「くたく」ことをどこまでやるか。言語活動の質の高まりが求められる5・6年と、既習の少ない3・4年では異なってくる。3・4年では、粘っても分からない表現を引き出すことに時間をかけず、ALT を活用するとよい。また、子供の振り返りを聞き、指導する時間を確保すること。今日の45分で子供が何を学び、どう思ったのか、それがこれからの学びに向かう力・人間性、主体的に学習に取り組む態度につながっていく。
- ・「相手に分かりやすいように工夫して」をどこまで求めていたのか。本時まで考えていた理由+αを「質問に答えてより分かりやすく伝えること」と捉えていたのであれば、話し手と聞き手の両方の変容を価値付けし、板書にまとめるとよかった。子供の言葉を拾い、意図的な板書をする事で、「やっぱり伝え合うには、話すことも聞くことも大切だ」と実感できたのではないだろうか。

今年度の大宮小学校授業づくり講座は終了しました。たくさんのご参加ありがとうございました。【東部教育事務所】